

新潟市 **小坂居付遺跡** 現地説明会資料

平成22年6月19日（土）
 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 株式会社ノガミ

1 はじめに

小坂居付遺跡は新潟市南区大字小坂字居付177ほかに所在します。一般国道8号白根バイパス建設事業に伴い、平成21年度に引き続いて4月から発掘調査を行っています。今年度の調査面積は2,500㎡です。

周辺には、同じく白根バイパス関係で発掘調査した同時期の浦廻遺跡②（出土品県指定）やほ場整備事業で白根市教育委員会が調査した馬場屋敷遺跡③（市指定遺跡）が所在します。

2 遺跡の概要

遺跡は、越後平野のほぼ中央を北流する中ノ口川右岸の沖積地に立地しています。平成21年度の調査で鎌倉時代から室町時代（13世紀後半～14世紀）の遺跡であることが分かり、屋敷地やその周辺に広がる水田を検出し、水田が調査区外に広がることと、水田面が複数重なっていることを確認しました。今回は広がりを確認した水田の調査で、現在は残りのよい2枚目の水田を調査しています。

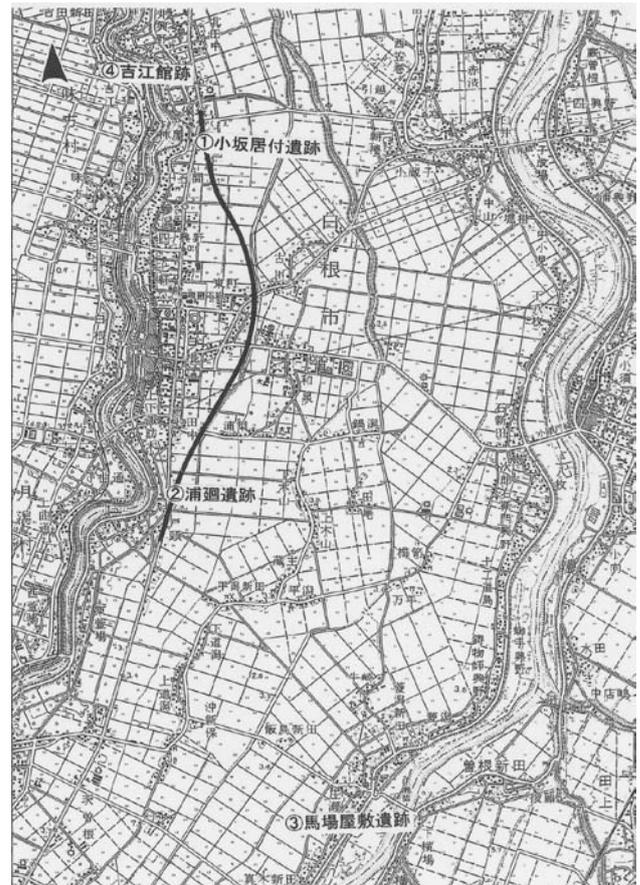


図1 周辺の遺跡

3 基本土層

遺跡の現況は神社跡地・水田・畑で、標高は0.2～0.7mです。表土下1.5mにはガツボ層（茶褐色腐植土）があり、周辺一帯に広く堆積していることから、室町時代以降、この地域は一時期、潟端のような滞水域であったと考えられます。中世の水田はこのガツボ層の下で見つかっています。1枚目の水田はガツボ層（Ⅶ層）下の灰白色シルト層（Ⅷ層）を耕作土とするもので、畦畔は見つかりませんが、自然科学分析（プラントオパール）で水田であることが判明しています。次の層は洪水で運ばれてきた砂で、2枚目の水田面を覆っています。この砂の層が畦畔の崩壊や流出を防ぎ、水田面を保護しています。現在はこの水田を調査しています。3枚目の水田は、2枚目の水田との間に薄い砂層を挟みます。この砂層も上の砂層同様、洪水堆積物と考えられます。なお、土層断面では3枚目の水田畦畔が2枚目の畦畔に重なっていることから、洪水直後も同じ地割りで水田耕作が再開されたものと考えられます。

調査区の北側では、ガツボ層（VII層）の中程で噴砂が面的に広がる部分を確認しています。地震の液状化現象によるもので、その後の引き込み等により地盤の弱い部分が沈下しています。この地盤沈下は埋もれていた水田にも影響を及ぼし、水田面が大きく傾いている所もあります。



図2 中世の水田（東から）

4 検出した水田

現在調査中の2枚目の水田は、南西 - 北東方向に走る幅 6.0m 前後の大畦畔、東南 - 北西方向の幅 0.3~0.5m 前後の小畦畔で区画さ

れています。南西 - 北東方向に掘られた幅 0.3m の溝も見つかっています。水田 1 枚の大きさは、南西 - 北東 15.0~20.0m、東南 - 北西 13.0m 前後で、21 年度調査の水田（1 辺 8~10m）に比べ大型です。水田域の地形は南西から北東に向い緩く傾斜しており、水田の大小もこういった傾斜や水廻りを考慮した結果と想定されます。東南 - 北西の小畦畔には水口状に切られたか所があることから、標高の高い南西側の水田から標高の低い北東側の水田へと田伝いに水を引き込んだと推測されます。また、田面には無数のヒト・大型動物の足跡が残ることから、牛（馬）耕が採用されていたことが分かります。

5 出土した遺物

現在調査中の水田からは遺物がほとんど出土していません。今回は 21 年度調査で屋敷地から出土した遺物を紹介します。陶磁器類（青磁・珠洲焼・土師質土器など）や金属製品（鉄碗・鉄鍋・刀子・鉄鎌・鈎・鋏・鏝・銭貨など）そして木製品（木簡・下駄・田下駄・鎌の柄・茅針・刀子柄・櫛など）が出土しています。

注目されるものに木簡があります。2 点出土していますが、第一号木簡は茅札で（表）「吉畝のかや／七月中／元亨三（1323）年（花押）」（裏）「(花押)」とあり、遺跡近くに今も残る「吉江」の地名が書かれています。この吉江地区には吉江館跡④の推定地があります。第二号木簡は種札で「しろわせ さとう／三郎」とあり、米の品種名「しろわせ」と人名が記されています。両木簡とも当時の生活の様子をうかがい知ることのできる貴重な資料であると言えます。「よしえのかや」「しろわせ」の文字は馬場屋敷遺跡出土木簡にもあり、関連が深いことが分かりました。

6 まとめ

今回の調査で水田面を 3 枚確認することができました。このうち 2 枚目と 3 枚目は 21 年度調査区で検出した屋敷地と同時期であると想定しています。水田は周辺一帯に広がるものと推測されますが、調査区外南側と市道引越保坂線周辺は水田面を覆う砂（洪水堆積物）が薄く、乱れていることから、水田の検出は困難と考えられます。今後、水田がよく残っている地区（調査区の北側）に調査展開し、水田の規模・構造について解明していきたいと考えています。

A3をA4に70%縮小しています。

